

歴史資料館の隣は、今から約1250年前、奈良時代に作られた豊後国分寺の跡地です。南北約300m、東西約180mの広大な境内に、高さ約67mの七重塔、本尊を安置する二階建ての金堂などが建ち並んでいました。今も残る七重塔の礎石からは、当時の壮麗な姿がしのべられます。

現在は寺跡の内、約33,000㎡が史跡公園として整備され、奈良時代の栄華を今に伝えるとともに、四季をつうじて市民の憩いの場となっています。

特に春には公園内の桜がとてもきれいに咲き誇り、隠れたお花見の名所となっています。ぜひ、桜の季節には歴史資料館でテーマ展をみたり、体験学習で楽しく歴史を学んだりし、その後で、お花見もお楽しみください。



豊後国分寺七重塔の礎石



桜が満開の史跡公園

インフォメーション Information

ふれあい歴史体験講座

実施日と内容 2月23日(土) 管玉・丸玉作り
3月 8日(土) 火起こしとパン焼き(午前のみ)
3月22日(土) 土笛づくり

時間 9時30分～/14時～(各回約2時間)

参加費 管玉・丸玉 3個セット 190円
火起こしとパン焼き パン1個 150円
土笛づくり 1個 50円

定員 各回70名(ともに先着順)

申し込み 電話でお申し込みください。
2月分は受付中。3月分の受付開始日は市報などでお知らせします。

テーマ展解説講座

内容 講座室でテーマ展「見て!感じて! 古代・中世の丹生」についてスライドなどで解説したのち、展示室をご案内します。

日時 2月24日(日) 14時～15時30分

講師 文化財課職員

参加費 展示をご覧になる場合は観覧料が必要です。

ミュージアム・シアター

実施日 2月24日(日) 飛鳥と奈良の都
まんが日本昔ばなし
「金太郎」・「宝の下駄」
3月23日(日) よみがえる光琳屋敷
まんが日本昔ばなし
「おむすびころりん」
「馬方とタヌキ」

時間 13時～14時 **料金** 無料 **申し込み** 不要

利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)
■休館日 第1月曜日の翌火曜日と第2～5月曜日(祝日の場合は開館)
祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)

■観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
※団体は20名以上、小中学生は無料
※特別展開催中は別料金となる場合があります。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。受付で手帳を提示してください。

■住所 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880



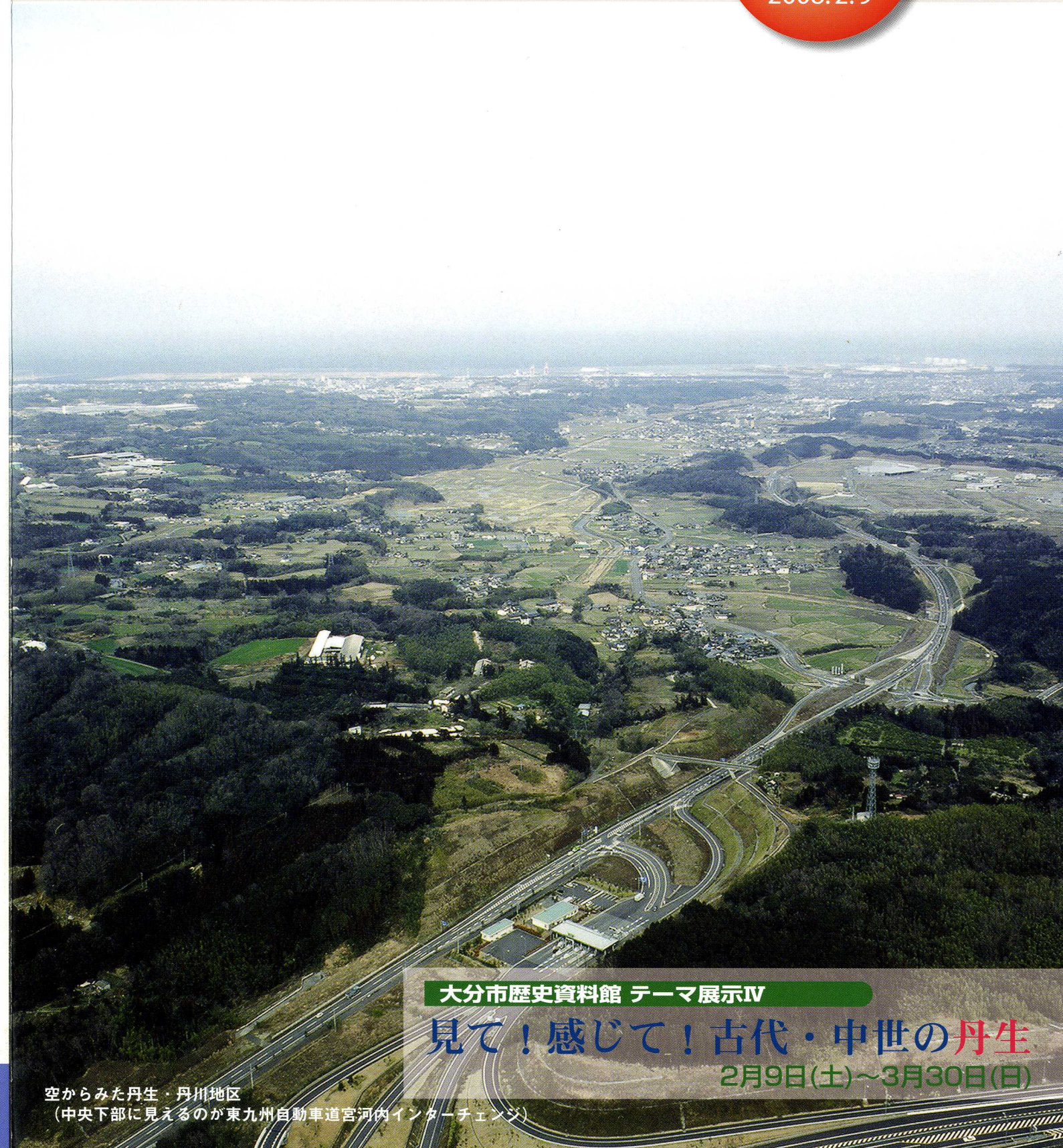
■交通機関
JR久大本線
※豊後国分駅下車
大分バス
国分新町ゆき
※歴史資料館入口下車
大分自動車道
大分IC、光吉IC
からともに約15分

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol. 82
2008.2.9



大分市歴史資料館 テーマ展示Ⅳ

見て!感じて!古代・中世の丹生
2月9日(土)～3月30日(日)

空からみた丹生・丹川地区
(中央下部に見えるのが東九州自動車道宮河内インターチェンジ)

見て！感じて！古代・中世の丹生

会期：平成20年2月9日(土)～3月30日(日)

大分市の東部に位置する坂ノ市の丹生・丹川地区。近年、発掘調査が行われ、貴重な遺跡や遺物が数多く見つかりました。今回は新たにわかった考古学的事実から、両地区の古代から中世の歴史を紹介します。

丹が出土

丹生・丹川地区は1万2000年以上前の旧石器時代から縄文時代、弥生時代と人々が生活した跡が見つかりました。

今から1600年前の古墳時代の遺跡からは、お祭りなどで使われる赤色顔料の「丹」を貯蔵した跡が見つかりました。

丹が生まれると書いて丹生、丹の川で丹川。二つの地名は、この地区で「丹」が産出していたから名付けられたと古くから言われていました。

「丹」の貯蔵跡出土は、地名の由来を裏付ける重要な発見でした。



丹が出土した様子▶

丹生郷の中心か

今から約1300～800年前の奈良・平安時代、この地区は「丹生郷」と呼ばれていました。調査では、役所などの公的施設でよく見られる建物跡や貴重な輸入陶磁器などが出土しました。

豊後国風土記には、「丹生郷 郡の西に在り」とあります。この郡とは郡の役所＝郡衙のことです。海部郡の郡衙は丹生地区より北東にある城原地区で見つかり、丹生・丹川地区が当時曰杵市域も含んでいた丹生郷の中心であったことが考えられます。



土壁をもつ建物跡の内部にあった石敷き



1・2…中国越州窯系青磁 3…灰釉陶器 4～6…緑釉陶器
役所など公的施設の存在をうかがわせる陶磁器

鎌倉時代の有力者の屋敷跡発見

800年前の鎌倉時代、丹生・丹川地区は丹生荘と呼ばれるようになります。発掘調査では、鎌倉時代の屋敷跡が発見されました。規模が大きく、きちんと整備され、また、貴重な輸入陶磁器も数多く出土しました。この屋敷跡は、大分市域では数少ない鎌倉時代の武士の屋敷跡で、丹生荘の有力者の屋敷跡と考えられます。

また、屋敷跡の近くからは、同時代のお墓が見つかりました。その中から中国製の湖州鏡や青銅製鈴2個が出土しました。特に青銅製鈴がお墓の中に入れられた例は大分県内初の発見例です。

この屋敷の主のお墓だったのでしょうか？



鎌倉時代、丹生荘にいた有力者の屋敷跡。敷地にはたくさんの土器が埋まっていた



屋敷跡近くのお墓から出土した中国製湖州鏡（左）と青銅製鈴

守護大友氏と丹生・丹川のつながり

丹生・丹川地区は鎌倉時代後期から豊後国守護大友氏が地頭職を務め、南北朝期以降は大友氏の直轄地となりました。今から約600年前の室町時代、大友氏第11代当主の大友親著は、自身の菩提寺として大慧寺を丹生荘に創建したと言われます。現在、そのお寺はなく、「大恵寺」という小字名だけが丹川地区に残っています。また、その近くには親著のお墓があり、この周辺に大慧寺が存在した可能性が高いと考えられます。

丹川地区では、かわらけ（素焼きの土器）を大量に廃棄した土坑が発見されました。これまで、このようなかわらけ廃棄土坑は大分市顕徳町にある大友館跡でしか見つかりませんでした。大友館跡の土坑は館内で行われた儀式や祝宴で使用された土器が捨てられた跡と考えられています。丹川地区で見つかった土坑は大友親著の時代のもので、付近に親著に関する館などの施設が存在していた可能性が考えられます。



丹川地区にある11代大友親著の墓



約500枚のかわらけを一度に捨てた穴